

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								4.0
Q1 室内環境			0.40					4.0
1 音環境		3.4	0.15					3.4
1.1 騒音		3.0	0.40					
1 室内騒音レベル		3.0	1.00					
1.2 遮音		4.2	0.40					
1 開口部遮音性能	T-2サッシュを使用	5.0	0.60					
2 界壁遮音性能		3.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		3.0	0.20					
2 温熱環境		3.8	0.35					3.8
2.1 室温制御		3.0	0.50					
1 室温		3.0	0.38					
2 外皮性能		3.0	0.25					
3 外皮性能		3.0	0.38					
4 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御	外調機内の水噴霧で調湿と海風の除塩を行うシステムを導入	4.0	0.20					
2.3 空調方式	気積の大きな執務室を床吹空調で無駄なく空調	5.0	0.30					
3 光・視環境		4.0	0.25					4.0
3.1 昼光利用		3.2	0.30					
1 昼光率		2.0	0.60					
2 方位別開口								
3 昼光利用設備	ハイサイドライトからの採光。水平ルーバーによるライトシールド効果。	5.0	0.40					
3.2 グレア対策		4.0	0.30					
1 昼光制御	庇、水平ルーバー(南面)、縦ルーバー(東西北面)による日射遮蔽。	4.0	1.00					
2 昼光制御								
3.3 照度	LEDベース照明とタスク照明により離席時のエネルギー浪費を減らす	4.0	0.15					
3.4 照明制御	人感センサーと明るさセンサーによる細やかな省エネ制御	5.0	0.25					
4 空気質環境		4.7	0.25					4.7
4.1 発生源対策		5.0	0.50					
1 化学汚染物質	全てF☆☆☆☆の内装材を使用。その他VOCは極力使用しない。	5.0	1.00					
4.2 換気		4.0	0.30					
1 換気量	中央管理方式の換気設備を設置	4.0	0.33					
2 自然換気性能		3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮	給気口は屋上に集約し、排気口からは離隔距離を確保している。	5.0	0.33					
4.3 運用管理		5.0	0.20					
1 CO ₂ の監視	中央制御により、CO ₂ 濃度に応じてVAVをコントロール。	5.0	0.50					
2 喫煙の制御	屋内に喫煙スペースを設置しない	5.0	0.50					
Q2 サービス性能			0.30					4.2
1 機能性		4.1	0.40					4.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40					
1 広さ・収納性		3.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33					
3 バリアフリー計画	職員・来客を迎える本館機能を担う建物に相応しい設えとする	4.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30					
1 広さ感・景観	直天井のゆとりある執務室と南全面をほぼフルハイトの窓面とする	5.0	0.33					
2 リフレッシュスペース	3フロアを階段状につなぐ職員の交流スペースを設置	5.0	0.33					
3 内装計画	「シンプル」な内装と光源が視界に入りにくいオフィス照明	5.0	0.33					
1.3 維持管理		4.5	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	劣化がし難く、汚れが付きにくく、清掃がしやすい材料を選定	5.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保	大掛かりな仮設なしに外装メンテナンスがしやすいバルコニーの設置	4.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		4.6	0.31					4.6
2.1 耐震・免震		5.0	0.48					
1 耐震性	免震構造による耐震安全性分類Ⅰ類(重要度係数1.5)の耐震性	5.0	0.80					
2 免震・制振性能	免震装置を導入(1,2階間に免震層を設けた中間層免震)	5.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.33					
1 躯体材料の耐用年数	Fe30以上のコンクリートを用い、計画供用期間(耐用年数)は約100年	5.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	20年以上耐用の内装材を中心に選定	5.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	殆どのダクトを耐腐食性の高いガルバリウム鋼板としている	5.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:B、排水管:B、冷温水管:C	5.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	主要室の換気・空調の系統2重化、免震構造及び設備耐震スクラ	4.6	0.19	-	-	
	2	給排水・衛生設備	断水時バックアップのための井水源雑用水槽、汚水処理槽を設置	5.0	0.20			
	3	電気設備	電源高所設置で浸水回避を目指し、停電時用の発電機を設置。	4.0	0.20			
	4	機械・配管支持方法	大地震による配管設備の破損を最小に抑える高い耐震支持性能	5.0	0.20			
	5	通信・情報設備	高所設置による浸水回避を目指す。複数インフラの確保。	4.0	0.20			
	3 対応性・更新性			3.8	0.29			
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	4.2mの高階高	4.6	0.31	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	ロングハンで成形の大空間執務室。壁長さ比率0.184。	5.0	0.60			
3.2 荷重のゆとり			執務室の変化対応のため余裕ある床耐荷重設定3500N/mとする	4.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
	6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	4.0
1 生物環境の保全と創出			厳しい臨海地域気候に適した植栽で従前よりも緑化率を増やす	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮				4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			前庭に面したデッキ等で外部空間利用を促進	4.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		敷地内緑被率44.9%	4.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.7
1 建物の熱負荷抑制			新省エネ基準でBPI値0.770	5.0	0.30	-	-	
2 自然エネルギー利用				4.0	0.20			
2.1 自然エネルギーの直接利用			ライトシェルフやハイサイドライトからの自然採光	4.0	0.50	-	-	
	2.2 自然エネルギーの変換利用		湧水を利用した空調冷熱源	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			高効率熱源の採用や照明LED化を推進	5.0	0.30	-	-	
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			ERR換算値=43.7%	5.0				
集合住宅の評価				4.5	0.20	-	-	4.5
4 効率的運用				5.0	0.50	-	-	
4.1 モニタリング			自動制御及びBEMS導入による効率的な設備管理	4.0	0.50			
4.2 運用管理体制			BEMSにより竣工後の設備運用の最適化をサポート	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護				4.2	0.15	-	-	
1.1 節水			水栓に節水コマを使用。便器には擬音装置を設置。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.3	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			湧水利用で雑用水の雨水利用率70%以上	5.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.9	0.63	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減			プレストレスコンクリート梁及びプレキャスト躯体の採用	3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.21	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			畳、タイルカーペット、ビニル床シート(ビニル床材)	5.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			乾式工法内装採用。コンセント等・配管の柱・壁躯体打込みをしない。	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			
1 消火剤			発電機オイルタンク室にCO2消火設備を導入	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			ノンフロン断熱材を使用	5.0	0.33			
3 冷媒				3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮			省エネと快適性の両立を目指す。LCCO2排出率71%	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮				4.1	0.33	-	-	4.1
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用しないオール電化オフィス	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			ゆとりある建物配置と、空地の積極的緑化で対策面積比率62%	4.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.6	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				-	-			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制			職員用の通勤シャトルバスを運行	5.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			各執務室にゴミ回収スペースを設け分別・リサイクルボックスを設置	3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	1.00			
2 振動				-	-			
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				4.0	-			
3 日照障害の抑制			工業専用地域のため日影規制なし	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			必要以上に広範囲を照らさないが安全に配慮した外構照明	4.0	0.70			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	